

令和3年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期（オンライン）
中間レポート(2)

埼玉の魅力を日本中、そして世界へ！—親善大使としての活動—

高澤美優

OSGS ではフィンドレー大学の授業参加に加えて、埼玉親善大使としての活動もプログラムの大きな軸となっています。これまで、親善大使として県産品の食レポや県内の農家訪問、オハイオ州の方を対象にした地元ツアーなどに取り組んできました。対外発信するなかで地元である埼玉の魅力を再発見することができました。本レポートでは、親善大使としての活動の詳細をご紹介します。県民の皆様にも埼玉の良さを感じていただけたら幸いです。

● 県産品の食レポ

県庁の敷地内にあるコバトンカフェにて、県自慢の銘菓の食レポを行いました。川越のさつまいもや狭山茶が用いられたお菓子を大変美味しくいただきました。これまで地元のお菓子をわざわざ買わないため、埼玉の名物を十分に知りませんでした。しかしその味は他県や世界に誇れるものであり、県内消費ももっと促進していくべきだと思いました。食レポの様子を写真や動画に収めたので、編集したものをInstagram等のSNSで発信する予定です。

● クワイ農家さんへのインタビュー訪問

県の農家を訪問する企画では、クワイ農家さんを訪問しインタビューさせていただきました。大きな「芽が出る」ことから出世などを願う縁起物としておせちで見かけるクワイですが、食べたことがあるとはっきり認識されている方は少ないのではないのでしょうか。そんななか農家さんのお話で印象に残ったのは、地元の学校給食でのクワイ提供についてです。消費量が少ないクワイを未来に残すには、学校給食などの何らかの機会でクワイを食べた経験のある人を増やすことが重要とのことでした。消費者と農家が一体となることでクワイは自然と次世代に伝わるという趣旨の言葉は、これから埼玉や日本の未来を担う世代である私にとって心に刺さるものがありました。大使として身近なところから魅力を発信していけたらと思いました。

● オハイオ州の方に向けた地元オンラインツアー

地元オンラインツアーでは、メンバー各自が地元の日常をzoomにてリアルタイム配信しました。その際、オハイオ州の方と双方向のコミュニケーションをできるだけ多くとることを何よりも重視しました。失敗を恐れずに発言することの意義やアメリカ人とより良いコミュニケーションをとる方法について授業で学んできた成果を、授業外で発揮したかったからです。そのため、観光地について一方的に説明したプレゼン動画は作成せず、日常の様子を映し、それを見た参加者の疑問に答えていくスタイルを取りました。結果、地元の小学校で行われていた少年野球から道路標識まで様々なことに興味を持ってくれたようで、最後まで質問が飛び交う大盛り上がるのツアーとなりました。

実は、この地元ツアーの前にフィンドレー大の学生がキャンパスツアーを同様の形式で行ってくれていました。学内庭園の様子など、日本の大学と大きく異なる点が散見されて興味深かったです。書籍やインターネットの情報では知ることのできないような何気ない日常こそ、生のコミュニケーションで伝え合うべきものなのかもしれないと実感する体験となりました。

